

3. 中心市街地の活性化の目標

(1) 中心市街地の基本テーマ

「みんなでつくる活気とにぎわいの場、暮らしよい元気な中心市街地」

倉吉市固有の歴史・文化、県中部地域の玄関口という特性を活かし、地域のやる気と創意工夫のもとで個性豊かな商業活動や新たな起業が活発に展開され、地域経済が着実に循環するまちとして、居心地がよく、歩いて楽しく、暮らしよい活気とにぎわいのある中心市街地。

(2) 中心市街地活性化の基本的な方針

①安全・安心で快適に暮らせる生活中心のまちづくり

生活の場としての環境の整備、新たな居住スタイルを楽しめる居住の場の提供、楽しく交流できる環境づくりを行うことにより、お年寄りが不便さや孤独を感じずに暮らすことができ、また子育て世代にとっても快適に住むことができる、更には市外や県外からもその環境に魅力を感じて新たな移住者・定住者が増え続けるような生活環境を備えたまちを目指す。

②生活文化の薫る歴史的な街並みを活かした観光・交流拠点のまちづくり

倉吉を訪れる観光客をはじめとする訪問者が、ゆっくりと徒歩で回遊し、倉吉ならではの生活文化を体験しながら滞在を楽しめる環境を整備し、消費の拡大へとつながるまちを目指す。

③都市型産業の育成やビジネス創出へとつながるまちづくり

中心市街地における産業・経済活動の健全な維持を図るとともに、将来の倉吉の産業・経済の高付加価値化、ブランド化、独自性の確立や個性化へとつながる新たな息吹とするため、新たな事業活動等の起業、誘致を推進するまちを目指す。

(3) 中心市街地活性化の目標と取組みの方向性

■目標1：誰もが持続的に住みたく暮らしやすい生活環境を備えたまち

【取組みの方向性】

- 買い物や医療など日常生活を支える機能の導入・誘導や質の高い生活サービスの提供
- 若い世代の感覚にも適応した新しい居住の場の提供
- 多様な人々が居心地よく時間を過ごせる環境づくり
- バリアフリーやユニバーサルデザインの推進、公共交通の利便性、快適性の向上

【内容】

倉吉においても、人口減少と高齢化が進展し、日常的な買い物やサービスを受けられる商業施設等の郊外化が進んできている。今後さらに進展する超高齢社会を見据え、倉吉市の活力を維持・向上させていく上で、中心市街地において、多様な世代の人々にとって暮らしやすい環境を整備することが極めて重要である。

このため、既存商業施設の再活性化などを含め、徒歩等によっても日常的な買い物ができる環境の充実や、医院・診療所などの日常生活を支える医療機能の充実など、生活に必要な機能の導入・誘導を進め、多様な世代の人々にとって住みやすい、質の高い生活サービスを提供できる環境を整備する。歴史的な市街地においては、空き家等のストックを有効に活用して、昔の建物の雰囲気

楽しみながら住まうことができる住宅等へのリノベーションを進めることにより、UターンやIターンを志向する若い世代の感覚にも適応した新しい居住の場を提供する。併せて、高齢者サロンなどのコミュニティスペースの充実により、多様な世代・境遇の人々が居心地よく、快適に時間を過ごせる環境づくりを行うことにより、消費と交流を促す。

また、バリアフリーやユニバーサルデザインを推進していくとともに、駅周辺地区と打吹地区とを連絡する公共交通バスの利便性、快適性の維持・向上を図るなど、誰もが安心して中心市街地を訪れ、移動できる環境を整える。

■目標2：歴史的・文化的資源を活かした回遊型観光のまち

【取組みの方向性】

- 伝統的建造物群の活用や歴史的・文化的な資源の発掘による観光地としての魅力向上
- やる気のある若年層や女性、高齢者などの様々な主体のアイデアや事業創出意欲を取り込んだ観光振興や観光ビジネスの拡大
- 体験型観光ニーズに対応したプログラムの提供、倉吉の環境を生かした滞在型観光の推進
- 歴史的な市街地の歩行環境等、回遊型の観光を行いやすい環境整備

【内容】

倉吉では、これまで打吹地区を中心に、赤瓦白壁土蔵群等の伝統的な歴史的建造物の蓄積を生かした、歴史や文化の香る観光振興の取り組みを行い、成果を挙げてきた。地域経済が右肩あがりではない中、倉吉の活力を維持し、向上を図っていくためには、交流人口の拡大を図る必要がある。従来の取り組みを土台として、歴史と文化によるまちづくりを草の根のように張り巡らし、掘り起し、発展させていくことにより、地域経済の活性化につながる観光・交流拠点の形成を図る。

このため、伝統的建造物群を観光・交流の拠点として利活用し、空き家・空き店舗の活用やリノベーションによる新たな集客施設を整備するとともに、潜在的な歴史的・文化的資源を発掘し、新たな視点や手法により観光資源として活用することで、一層の魅力の向上を図る。利活用にあたっては、やる気のある若年層や女性、高齢者などの様々な主体のアイデアや事業創出意欲を取り込むことを前提に、まちなかで新規にビジネスを起業できる環境を整備し、観光振興とともに観光ビジネスの拡大を図る。また、体験型の観光ニーズへと対応するための多様なプログラムの提供と町家等を活用した宿泊機能の充実など、倉吉の環境を生かした滞在型観光を進め、あわせて、歴史的な市街地の歩行環境の整備をさらに進めていくことにより、回遊型の観光を行いやすい環境を整備する。

また、地域に立地する大学等の教育・研究機関等の知的な資源、人材の集積を生かし、市民の文化活動や生涯教育の場としての中心市街地の機能を充実させることにより、周辺地域からも日常的に人が訪れるまちとしていく。

■目標3：小規模でも高付加価値な事業活動を創出するまち

【取組みの方向性】

- 小規模でも高付加価値な企業の誘致や起業の支援
- 話題性、メッセージ性、影響力のある専門家などに対する活動の場の整備・提供

【内容】

倉吉の駅周辺地区、打吹地区には、市内の事業所の多くが集積し、従業者もその多くが就業している。特に、駅周辺地区については「宿泊・飲食サービス業」「情報通信業」「金融業」のほとんど事業所が集積しており、打吹地区では「卸売・小売業」や「生活関連サービス業」「宿泊業・飲食サービス業」が多くの集積している。二つの拠点は、それぞれの特性を有しながら、経済産業活動面において倉吉市の中心として機能しており、今後も、社会全体の産業構造の変化に適応しながら維持・発展していく役割が求められている。

このため、既存にある業種の健全な維持を図るとともに、小規模でも高付加価値な事業活動を行う企業の誘致や、新たな成長・雇用の源泉となる起業の支援・促進を図ることにより、時代の流れを作っていく企業や、新たな働き方を求める人など、産業・経済活動を担うプレイヤーを積極的に引き寄せ、地域型の事業振興を図る。また、アーティスト、クリエイター、デザイナーといった、話題性やメッセージ性、影響力のある専門家等についても、活動の場（アトリエや創作活動の場等）を整備・提供するなど、積極的にその誘致に取り組んでいく。

（４）目標指標と数値

○目標１：誰もが持続的に住みたくなる暮らしやすい生活環境を備えたまち

⇒**中心市街地全体の人口の社会増減**

○目標２：歴史的・文化資源を活かした回遊型観光のまち

⇒**中心市街地における観光入込客数**

○目標３：小規模でも高付加価値な事業活動を創出するまち

⇒**中心市街地における創業事業所数**

1) 誰もが持続的に住みたくなる暮らしやすい生活環境を備えたまち

①目標設定の考え方

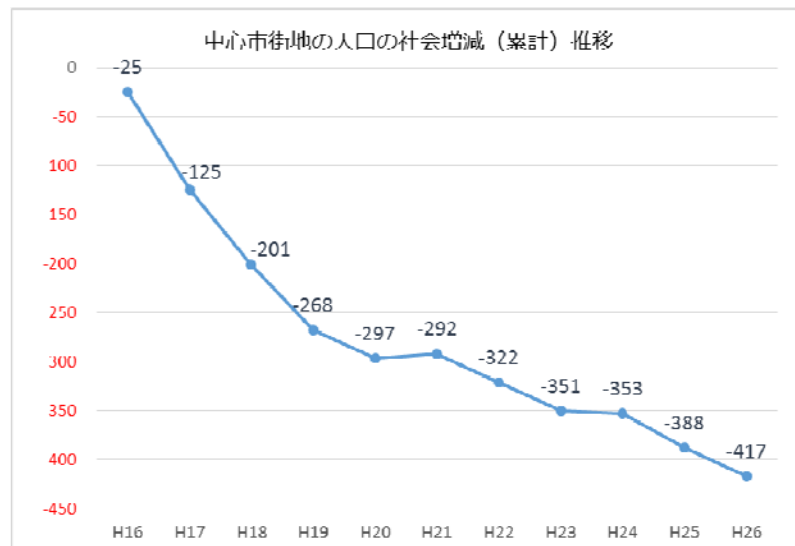
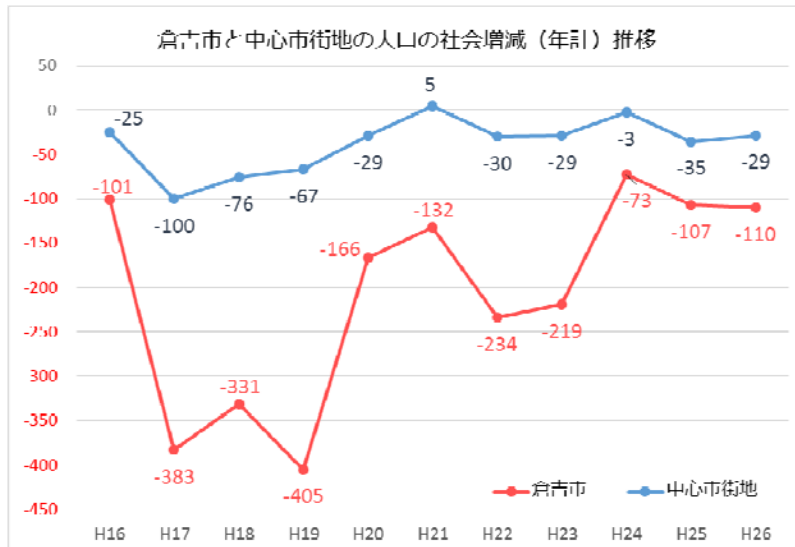
中心市街地の生活環境がどの程度向上しているのか、また居住環境がどの程度魅力的になっているのかを把握するための指標として、中心市街地の居住人口の社会増減を把握し、目標値を設定することとする。

この目標では、暮らしやすい生活環境や質の高い居住機能の整備などにより、多様な人が快適に暮らすことのできるまちを目指しているため、新たな居住環境の提供や生活サポート機能の質を高める事業の実施が、今現在暮らす人の満足度の向上だけでなく、移住者や定住者を増やすことへと繋がり、その成果が居住人口の社会増減となって現れると考え、中心市街地全体の居住人口の社会増減の累計を指標として設定することとする。

⇒**中心市街地全体の人口の社会増減**

②数値の動向

最近10年程度の期間ではほぼいずれの年においても社会減（流出超）が続いているが、平成17年や平成19年の社会減が特に大きいなど、年による偏差も大きい。中心市街地の社会増減を累計値としてみると、社会減に歯止めがかからず流出超が続く傾向が見られる。



出典：各年住民基本台帳

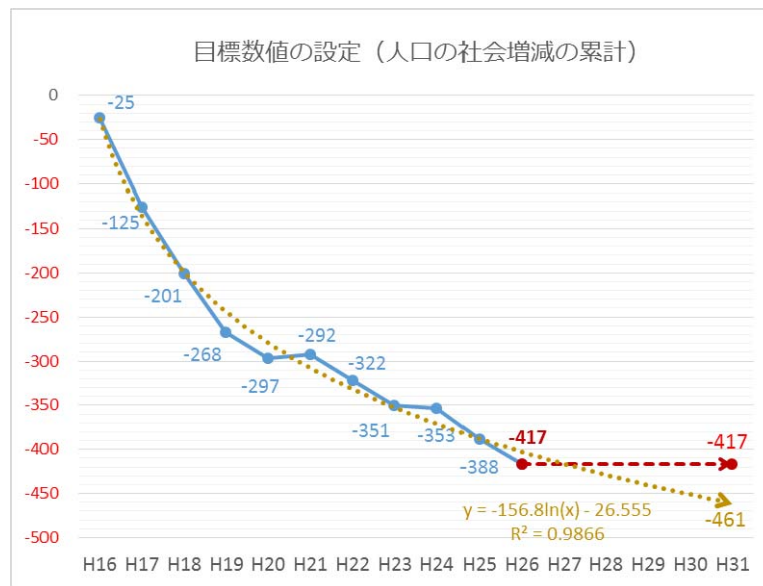
③目標数値の設定

⇒平成26年を基準とし、5年間（平成27～平成31年）の社会増減の累計を0と設定する。

平成16年に25人だった中心市街地の人口の社会減は、平成26年には累計で417人の社会減（417人の流出超）となっている。社会減の傾向は顕著であるため、活性化の取組みを行わない場合には人口の流出超は続き、累計の社会減も大きくなり続けると予想される。過去の推移から今後を予測すると、平成26年から平成31年にかけてさらに約40人の社会減が進んでいくと予測される。

これらを踏まえ、社会減に歯止めをかけるため、目標値は平成26年を基準として、平成31年までの5年間での累計の社会減を0とする。

拠点的な生活・居住環境の整備、強化だけでなく、中心市街地の商業や業務活動の機能強化や拠点整備と併せて、生活環境の整備や居住環境の整備を面的に図ることにより、地区全体として暮らしやすいまちを形成し、居住空間としての快適性、魅力向上に繋げることができるよう、目標達成を目指すこととする。



④目標数値達成のための事業について

ア リノベーション等による居住推進

打吹地区をはじめとした中心市街地の古民家や空き家等をリノベーションし、その一部にシェアハウスや賃貸住宅を整備することにより、歴史的な環境を生かした魅力的な住環境を提供し、Uターン、Iターン等による市外、県外からの若年層を中心とした移住を進め、中心市街地の居住者増を図る。

その際、中心市街地における居住のリフォームに対して助成を行う「住宅リフォーム助成事業」の活用を積極的に図ることにより、リノベーションの促進を加速する。

■増加の見込み

リノベーション住宅による居住者増	2世帯×2名×5年	=	<u>20人</u>
	2世帯×1名×5年	=	<u>10人</u>
	合計4世帯		<u>30人</u>

※シェアハウス、賃貸住宅、中古住宅のあっせん・提供など、各種ケースを含め、毎年、単身者2世帯及び夫婦世帯2世帯の合計4世帯程度のリノベーションを見込む。

下記の通り、鳥取市での定住促進の取組み（UJIターン住宅支援事業を始めとする多様な定住促進事業）による移住実績から、移住人口を算出する。

- ・平成21～25年度の5か年の平均移住実績：100世帯
- ・鳥取市（7.8万世帯）に対する倉吉市の世帯（2.1万世帯）の割合：約27%
- ・倉吉市に対する中心市街地の世帯数（3,180世帯）の割合：約15%

⇒想定移住世帯数：4世帯（100世帯×27%×15%）

イ 居住者を支援する事業の実施や生活サービスの充実

今後、倉吉市では、民間事業者等と協力しながら、多様な事業を実施することにより居住者の支援や生活サービスの充実を図る。

○居住者の支援や生活サービスの充実につながる事業

- ・市民に利用されている体育施設、文教施設の老朽化に対応し長寿命化を図る「打吹公園整備事業」
- ・地域の店舗が子育て応援に協賛する「若者子育て世帯買い物応援事業」
- ・地域住民の買い物環境を支援する「倉吉駅前ファーマーズマーケット整備事業」
- ・元気な高齢者の社会活動の場づくりを行う「住民運営のサロン事業」 等

これらの施策により中心市街地における居住環境の魅力が向上することから、転入居住者の増加が見込まれる。

■増加の見込み

生活環境の充実による居住者増 $2 \text{世帯} \times 2 \text{名} \times 5 \text{年} = \underline{20 \text{人}}$

※毎年世帯人数2人の2世帯程度の移住を見込む。

ウ 高齢者に対応した住宅等の整備

倉吉駅周辺地区（駅南）の商業施設周辺においてサービス付高齢者向け賃貸住宅事業の整備を計画しており、設備のととのった利便性の高い住宅の提供により駅周辺地区への居住の増加を見込む。

○増加の見込み

高齢者用住宅の提供による居住者増 $\underline{50 \text{人}}$

下記の通り、倉吉市と中心市街地の高齢人口の割合から、中心市街地外からの流入人口となる入居者数を算出する。

- ・倉吉市 高齢人口 (H26.1 住民基本台帳) : 14,647 人
 - ・中心市街地 高齢人口 (H26.1 住民基本台帳) : 2,432 人 (倉吉市高齢人口の約 17%)
 - ・入居定員 68 人 \times 入居率 88%[※] = 60 人の入居者数を見込む
 - ⇒入居者のうち、中心市街地からの入居者数は全体の約 17%と見込む=10 人
 - ⇒入居者のうち、中心市街地以外からの入居者数は全体の約 83%と見込む=50 人
- ※事業者へのヒアリングによる

以上、ア、イ、ウ の事業の実施等により、トレンドによる社会減の想定（44 人）を上回る、100 人の増加を見込み、目標を達成する。

$\begin{aligned} & 0 \text{ (基準値)} - 44 \text{ (トレンドによる減少)} + 100 \text{ (増加見込み)} \\ & = 56 \text{人} \geq 0 \text{ (目標値：5年累計の社会減0)} \end{aligned}$

⑤フォローアップについて

毎年1回、1月末時点の住民基本台帳により、人口の社会増減を把握するとともに、事業の進捗状況について、毎年度末に調査を実施、把握し、その評価を踏まえて、状況に応じた必要な措置を講ずることとする。

2) 歴史的・文化的資源を活かした回遊型観光のまち

①目標設定の考え方

中心市街地に観光客などの訪問者がどの程度訪れるのか、また回遊し、滞在しているのかを把握するための指標として、中心市街地のうち、既に赤瓦白壁土蔵群等の観光地として取組みが行われ、歴史・文化的エリアとして認識されている打吹地区に立地する主要な観光施設を対象とした「入込客数」を把握し、目標値を設定することとする。

打吹地区は前述のように、倉吉市の観光地の中心である赤瓦白壁土蔵群が立地しており、土蔵を活かした赤瓦一号館や物産館などの観光施設をはじめとし、博物館などの文化施設も多数立地し、観光客の多くが立ち寄る地区となっている。

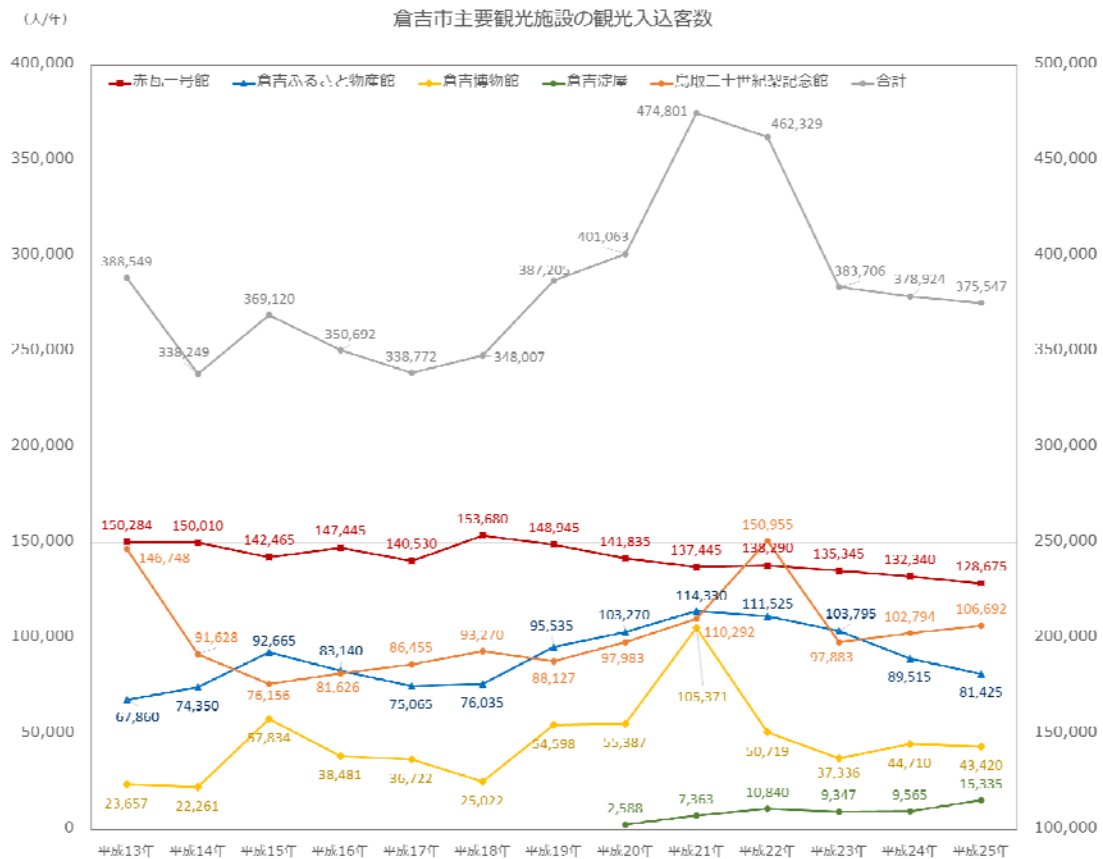
この目標では、潜在的な歴史的・文化的資源の発掘により、歴史と文化によるまちづくりを進展させ、新たな視点や手法による資源の活用でさらなる観光・交流拠点の形成を図ることを目指しているため、歴史的・文化的資源に着目した施設の集積や機能増進、また回遊性の向上のための事業の実施は、拠点の交流人口や、エリアの回遊人口にその成果が現れると考え、歴史的・文化的資源が集積している打吹地区における「観光入込客数」を指標として設定する。打吹地区で観光客が来訪する観光施設は限定されるため、現状の主要な観光5施設（倉吉博物館、赤瓦一号館、倉吉ふるさと物産館（赤瓦八号館）、倉吉淀屋、鳥取二十世紀梨記念館）に加え、新たに改修整備する打吹正宗への入込客数をもってこれを把握する。

⇒**中心市街地における観光入込客**

②数値の動向

中心市街地の主要な観光施設（倉吉博物館、赤瓦一号館、倉吉ふるさと物産館（赤瓦八号館）、倉吉淀屋、鳥取二十世紀梨記念館）のうち、赤瓦一号館については、平成13年度より緩やかに増減を繰り返していたが、平成18年度以降は一貫して減少しており、最近5年間で1万人減少している。倉吉ふるさと物産館については、増減を繰り返しながら平成21年度に向けて増加してきたが、それ以降は減少傾向が続いており、ピーク時に比べて約3万人減少している。また、倉吉博物館については、平成21年度に特異年が見られるほか、約5万人程度を軸として増減を繰り返している。一方、倉吉淀屋については、増加傾向にあり、平成21年から平成25年の5年で、倍以上の入込が見られる。鳥取県二十世紀梨記念館は、平成22年に特異年が見られるが、平成15年から緩やかに増加をしている。

これらの結果、主要施設の入込客数を合計した総数については、大きな変動を繰り返しながらも増加しつつあった平成20年度までに対して、平成21年度以降は一貫して減少を続けており、倉吉の観光の象徴の一つである赤瓦一号館への来訪者が減少を続けていることとあわせて考えても、観光の衰退傾向がみられる。



出典：倉吉市による各施設への調査

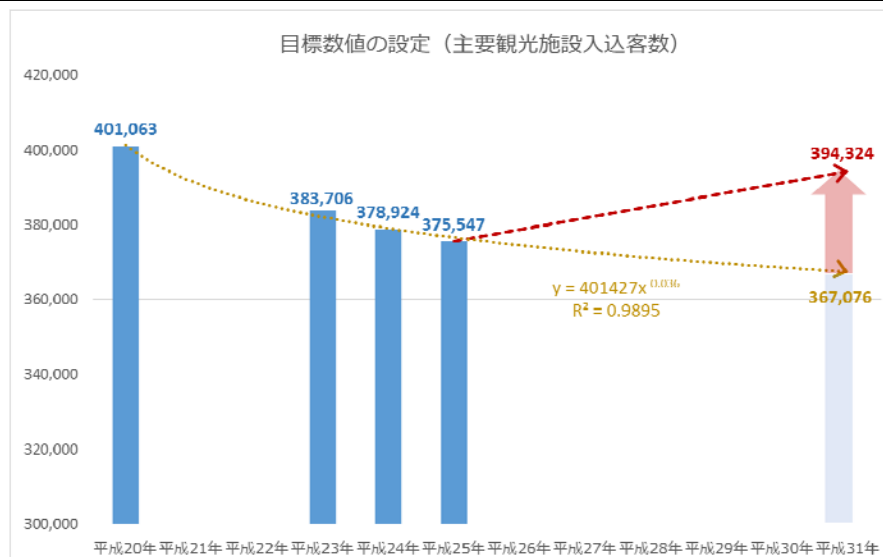
③目標数値の設定

⇒平成 25 年を基準とし、平成 31 年には約 5%増の 39.4 万人と設定する

倉吉の中心市街地には、観光施設が比較的少ないため、主要な観光施設の入込客数を通じて、中心市街地への観光客の来訪状況の概略を把握することが可能である。現状の主要観光施設（5施設）の入込客数の過去の推移から今後を予測すると、平成 31 年度には、現状の約 37.6 万人から約 32.4 万人程度にまで減少するものと予想される。

この傾向を踏まえて、中心市街地における観光客数の減少傾向に歯止めをかけたうえで、基準値に対して約 5%増の 39.4 万人を目標に設定する。これは、今後、活性化の取組みを行わない場合の予測値（約 36.7 万人）に比べて、約 2.7 万人の増加を目標とする数値となる。

このため、今後は、現状の 5 施設のほか、新たに改修整備する主要観光施設（打吹正宗）により中心市街地の観光客を増加させると同時に、現状の各施設の魅力向上にも取り組む。また、歴史的建造物群保存地区以外のエリアも含めて、倉吉の歴史的・文化的な市街地の資源をより広く捉え、観光の拠点づくりを進める。これにより、打吹地区全体の回遊性も高め、観光等による滞在時間を増加させるような、観光地としての総合的な魅力を高める取組みを行っていくことにより、目標達成を目指すこととする。



④目標数値達成のための事業について

ア 歴史的建造物を活用した新たな観光施設の整備、既存施設の改修

江戸時代からの酒造であった小川家の母屋、酒蔵、庭園が県文化財指定を受けることを契機に、展示機能を有した改修を行い、新たな集客施設として整備する。また、蔵の一部（指定外）を改修し酒や土産物販売、喫茶・軽食販売が行える店舗として整備し新たな賑わいを創出する。（仮：打吹正宗復興事業）

倉吉で現存する最古の町家建築である「倉吉淀屋」をこれまでも観光施設として開放してきたが、その施設修復、修繕や案内スタッフの拡充により施設の魅力を高め、観光施設としてのさらなる機能強化を図る。

■増加の見込み

打吹正宗復興事業（新規観光施設） 約 48,000 人

下記の通り、近隣の類似施設における入込客数と施設面積から、（仮）打吹正宗復興事業の年間入込客数を算出する。

- ・ 赤瓦一号館（商業施設）：入込客数 128,675 人、施設面積 486 ㎡
- ・ 倉吉淀屋（展示施設）：入込客数 15,335 人、施設面積 449 ㎡
- ・ ㎡あたりの入込客数：商業施設=265 人/㎡、展示施設=34 人/㎡
- ・（仮）打吹正宗復興事業の商業施設の面積：94 ㎡
⇒想定入込客数：24,912 人（94 ㎡×265 人/㎡）
- ・（仮）打吹正宗復興事業の展示施設の面積：675 ㎡
⇒想定入込客数：23,046 人（675 ㎡×34 人/㎡）
- ・（仮）打吹正宗復興事業の入込客数：47,957 人

倉吉淀屋の改修 約 6,400 人

下記の通り、同施設における入込客数と施設面積から、倉吉淀屋活用事業（付属屋の修理、復原、修繕等）により増加する年間入込客数を算出する。

- ・ 現在の倉吉淀屋：入込客数 15,335 人、施設面積 449 ㎡
- ・ ㎡あたりの入込客数：34 人/㎡
- ・ 改修部分（付属屋）：189 ㎡
⇒想定増加入込客数：6,426 人（189 ㎡×34 人/㎡）

イ 歴史的な街並みの整備など観光地としての環境整備・魅力向上の取り組み

今後、倉吉市では、民間事業者等と協力しながら、下記の様な事業を実施することにより観光地としての環境整備・魅力向上を図る。

○観光地としての環境整備・魅力向上につながる事業

- ・倉吉の観光を支えてきた既存の伝統的建築物群保存地区の修景事業の維持・更新、新たな伝建地区指定やその修景に取り組む「歴史的景観整備事業」
- ・自家用車、観光バス等で来訪する観光客の利便性、快適性を向上する「観光駐車場整備事業」

○新たな交流人口増加につながる事業

- ・市内の観光スポットを結び各地でミステリーツアーを実施する人気の観光ツアーを誘致する「名探偵コナンミステリーツアー」
- ・ウォーキングやトレイルの関係者が一堂に会する世界的なイベントを誘致する「アジア・トレイル・カンファレンス」、「ワールド・トレイル・カンファレンス」等

これらの施策により、観光地としての魅力が高まり、また倉吉を来訪するリピーターの増加が見込まれることから、観光客数の増加が見込まれる。

■増加の見込み

観光地としての魅力向上等による観光客数の増（既存観光客数の5%増加）

$$375,500 \text{ 人} \times 5\% = \underline{18,700 \text{ 人}}$$

下記の通り、伝統的建造物群保存地区である打吹地区において平成17年度から平成21年度に既に実施された倉吉打吹地区まちづくり交付金事業による効果をもとに、観光地としての魅力向上における全体的な観光客数増について算出する。

- ・主要事業（5か年）
 - ：防災センター整備事業、防災活動（平成17年度）
 - 淀屋再生プロジェクト（平成18-20年度）
 - 観光バス回転広場整備、景観に配慮した外構工事（平成19年度）
 - 歴史的景観を活かすための商店街のアーケード撤去（平成19年度）
 - 飛龍閣（歴史的建造物）の交流スペースとしての開放（平成20-21年度）等
- ・整備前（平成16年度）の年間観光客数：300,000人
- ・整備後（平成21年度）の年間観光客数：383,646人
 - ⇒約5%の割合で毎年増加（ $300,000 \times 1.05 \times 1.05 \times 1.05 \times 1.05 \times 1.05 = 382,884$ 人）
 - ⇒類似事業等の実施により、少なくとも5年で+5%の増加があると見込む。

以上、ア、イの事業の実施等により、トレンドによる減少の想定（8,500人）を上回る、73,100人の増加を見込み、目標を達成する。

$\begin{aligned} &375,500 \text{ 人 (基準値)} - 8,500 \text{ 人 (トレンドによる減少)} \\ &+ 73,100 \text{ 人 (増加見込み)} \\ &= 440,100 \text{ 人} \geq 394,300 \text{ (目標値：基準値に対する5%増)} \end{aligned}$

⑤フォローアップについて

毎年1月に前年の「中心市街地における観光入込客数」を集計し、数値を把握するとともに、事業の進捗状況について、毎年度末に調査を実施、把握し、その評価を踏まえて、状況に応じた必要な措置を講ずることとする。

3) 小規模でも高付加価値な事業活動を創出するまちをつくる

①目標設定の考え方

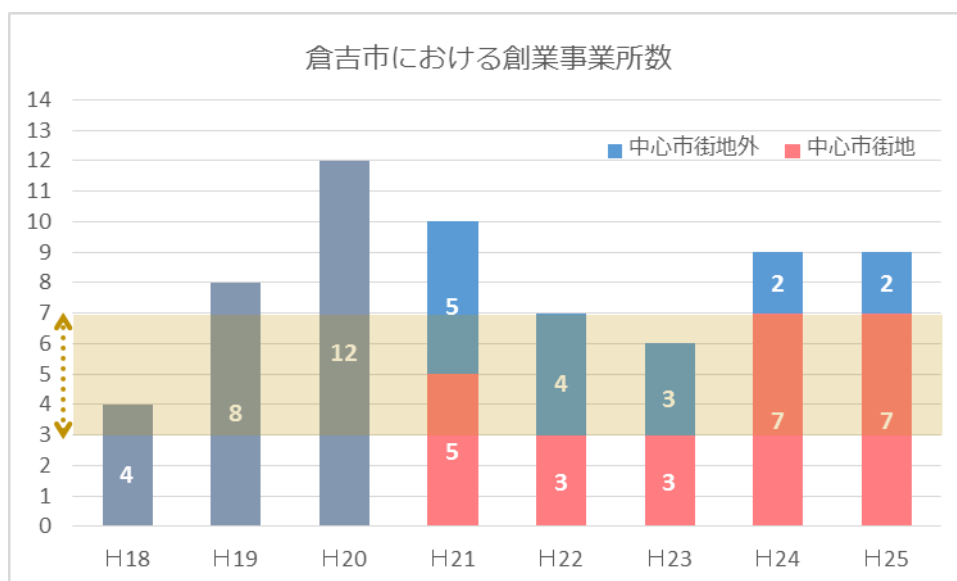
中心市街地において、新たな事業活動がどの程度生まれているのかを把握するための指標として、「中心市街地における創業事業所数」を把握し、目標値を設定することとする。

この目標では、既存業種の健全な維持に加え、倉吉の産業や経済をけん引していくことのできる新しい事業活動や新しい動き、流れを生み出し、産業・経済の視点から倉吉の独自性の確立や活性化を図ることを目指しているため、小規模でも高付加価値な企業の誘致や起業支援、またそれらの新しい流れや動きを生み出すことのできるプレイヤーを支援、誘致するための環境整備などの事業の実施や、中心市街地でも求心力・波及力のある地区で重点的に事業をすることが、新たな事業活動の創出や集積、及び周辺への波及的な活性化につながり、その成果が新たに創業した事業所数の増加となって現れると考え、毎年経年で把握することのできる、商工会議所が把握している中心市街地における創業事業所数を指標として設定することとする。

⇒**中心市街地における創業事業所数**

②数値の動向

倉吉市における創業事業所は、平成20年をピークに増減を繰り返し、微減傾向にある。そのうち、中心市街地における創業事業所数は、件数のばらつきはあるものの、年間約5件程度の創業件数がみられる。全体に対して4割程度だった中心市街地における創業件数の割合は平成24年より拡大し、約8割程度に割合が高くなっている。



注) H18～H20における創業事業所については、中心市街地内外の内訳不明。

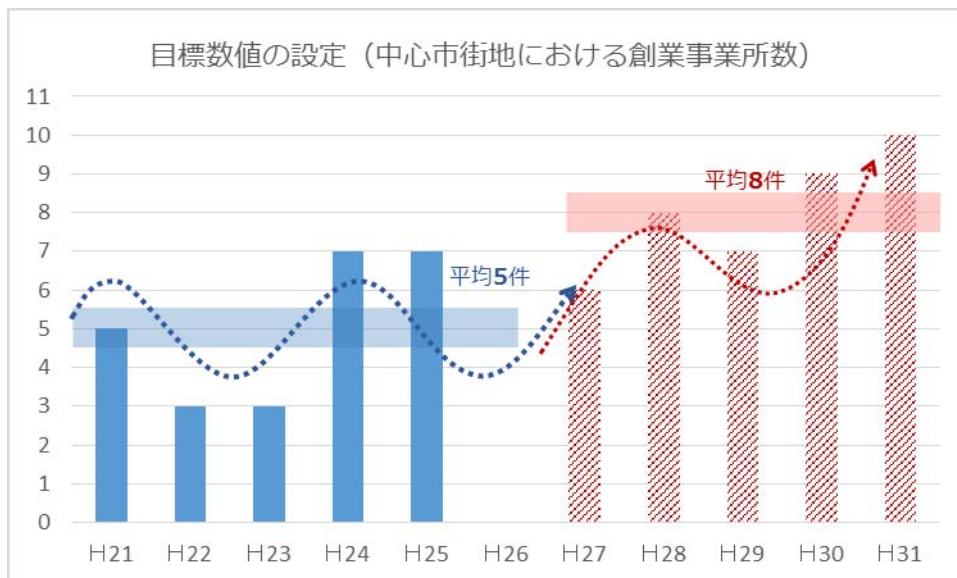
出典：商工会議所が把握する倉吉市における創業事業所数

③目標数値の設定

⇒平成25年度を基準とし、平成27年度から平成31年度の平均件数を約1.5倍の8件と設定する

中心市街地の事業所の総数が右肩下がりに減少しているなか、多少の変動はあるものの年間5件の創業件数があるため、活性化の取組みを行わない場合にも平成31年度には同程度の5件となることが予測される。これを踏まえ、目標値は平成25年度を基準として、取組みが終わる平成31年度には1.5倍程度の水準となることを目途とする。但し、創業件数は年による変動も大きいことから、変動を繰り返しながら増加していくことを見込み、目標値は「平成27年度から平成31年度の期間における年平均が、8件程度となること」と設定する。

また、創業件数を増やすだけでなく、規模が小さくてもまちにとって価値のある事業活動や、その動きを生み出すことのできるプレイヤーを誘致できるよう、あわせて活動の場の整備もしながら、新たな息吹の生まれる事業活動や地区の特性にあわせた事業活動の発展につながるよう、目標達成を目指すこととする。



④目標数値達成のための事業について

ア リノベーションによる再生

打吹地区をはじめとした中心市街地の古民家や空き家等をリノベーションし、事務所、店舗等として活用する「リノベーション居住推進事業」を実施する。このため、住宅改修に関する補助等も実施しながら、民間事業者等によるリノベーション事業の支援を行い、これを通じて、新規事業者による起業を促進する。

■増加の見込み

リノベーションによる事業所増 年間2件×5年 = **10件**

※倉吉市による事業推進及び民間事業者の事業促進により、毎年2件程度ずつ事業が実施されると見込む。

イ チャレンジショップや起業支援の取り組み

高齢者にも暮らしやすい中心市街地の居住環境を形成するため、商店街の空き店舗等を活用した日常生活を支える店舗（食品や日用品等の店舗、食堂等）の設置や、地域コミュニティスペースの設置・運営を行う不動産所有者や民間事業者、地域団体等の取り組みを支援する「地域の暮らしを支える商店街づくり事業」によって、新規の出店を促す。

その他下記のような事業の実施により起業の支援を行う。

○地域における起業支援につながる事業

- ・ 空き店舗のマッチングや販路開拓を支援する「地域産業活性化推進事業」
- ・ 長期低金利の制度融資を行う「倉吉市制度融資事業」
- ・ 倉吉市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー設置事業

■増加の見込み

起業支援による事業所増 年間2件×5年 = 10件

※チャレンジショップ出店促進、複合的な起業支援の取り組みにより、年間2件程度の起業を見込む。

以上、ア、イ の事業の実施等により、5年間で約20件の増加を見込み、目標を達成する。

5（基準値）+4（増加見込み） = 9件 ≥ 8（目標値）

⑤フォローアップについて

毎年4月に前年度の「中心市街地における創業事業所数」を集計し、数値を把握するとともに、事業の進捗状況について、その評価を踏まえて、状況に応じた必要な措置を講ずることとする。